

Title	プチプラネット： 長期入院児のコミュニケーションのきっかけを創出するタンジブルメディアのデザイン
Sub Title	Puchi Planet : A tangible media design that engenders communication amongst hospitalized children
Author	赤羽, 進亮(Akabane, Shinsuke) 稲蔭, 正彦(Inakage, Masahiko)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	本論文では長期入院児たちのコミュニケーションのきっかけを作る為に設計されたプチプラネットについて述べる。プチプラネットは入院児たちが病室にしながら世界中を旅しているような体験を持てるシステムである。またプチプラネットを複数の人で遊ぶことにより、そこに新たなコミュニケーションが生まれることを目的としている。 今日、日本国内において40,000人以上の児童が入院している。彼らの多くは子ども用のベッドの上で一日のほとんどを過ごし、病気による身体的苦痛に苦しむ一方で孤独感や退屈感といった精神的苦痛にも悩まされている。そんな彼らの精神的苦痛を少しでも軽減させるためにプチプラネットは開発された。プチプラネットによって子どもたちは同じ病室内にいる母親や子どもと一緒に世界中を旅した体験を得ることができる。またその体験の中で周囲の人と会話したり笑い合ったりすることで日々不足がちであったコミュニケーションを補うことができる。 本論文ではこのプチプラネットがどのような過程によって設計され、開発が行われたか、そして実際にどのような効果をもたらしたかを考察する。
Notes	修士学位論文. 2010年度メディアデザイン学 第67号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002010-0067

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2010 年度（平成 22 年度）

プチプラネット：
長期入院児のコミュニケーションのきっかけを創出する
タンジブルメディアのデザイン

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科

赤羽 進亮

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士(メディアデザイン学) 授与の要件として提出した修士論文である。

赤羽 進亮

指導教員：

稲蔭 正彦 教授 (主指導教員)

砂原 秀樹 教授 (副指導教員)

審査委員：

稲蔭 正彦 教授 (主査)

砂原 秀樹 教授 (副査)

岸 博幸 教授 (副査)

修士論文 2010 年度（平成 22 年度）

**プチプラネット：
長期入院児のコミュニケーションのきっかけを創出する
タンジブルメディアのデザイン**

論文要旨

本論文では長期入院児たちのコミュニケーションのきっかけを作る為に設計されたプチプラネットについて述べる。プチプラネットは入院児たちが病室にしながら世界中を旅しているような体験を持てるシステムである。またプチプラネットを複数の人で遊ぶことにより、そこに新たなコミュニケーションが生まれることを目的としている。

今日、日本国内において 40,000 人以上の児童が入院している。彼らの多くは子ども用のベッドの上で一日のほとんどを過ごし、病気による身体的苦痛に苦しむ一方で孤独感や退屈感といった精神的苦痛にも悩まされている。そんな彼らの精神的苦痛を少しでも軽減させるためにプチプラネットは開発された。プチプラネットによって子どもたちは同じ病室内にいる母親や子どもと一緒に世界中を旅した体験を得ることができる。またその体験の中で周囲の人と会話したり笑い合ったりすることで日々不足がちであったコミュニケーションを補うことができる。

本論文ではこのプチプラネットがどのような過程によって設計され、開発が行われたか、そして実際にどのような効果をもたらしたかを考察する。

キーワード

インタラクションデザイン，ユーザインターフェース，タンジブルインターフェース，医療，入院児童

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科

赤羽 進亮

Abstract of Master ' s Thesis Academic Year 2010

**Puchi Planet:
A Tangible Media Design
That Engenders Communication
Amongst Hospitalized Children**

Summary

This thesis is about the development of a device that will help create conversations between children who have been hospitalized for a long time and their families. The concept behind the system is to widen the scope of hospital surroundings by giving children the sense that they are traveling around the world. In addition, the Puchi Planet was specifically designed for multiple players to further encourage communication.

Hospitalized children experience mental strain from the loneliness and boredom all resulted by their health condition. Puchi Planet was created to help alleviate some of this strain by giving these children a way to travel around the world. The children are meant to play with each other and/or their families where the communication can be fostered through the utilization of the device. This thesis will describe the development process of Puchi Plant from the design to the prototype as well as the results of actual utilization by children.

Keywords:

Interaction Desing, User Interface, Tangible Interface, Medical, Hospitalized Children

Graduate School of Media Design, Keio University

Shinsuke Akabane